日本ジョージア州との交流の物語–継続する友情の橋渡し

ジミー・カーター大統領平和の鐘プロジェクト-コンセプトと提案

Consulate-General of Japan in Atlanta
在アトランタ日本国総領事館

THE JAPAN-AMERICA SOCIETY OF GEORGIA
ジョージア日米協会

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE
JCC

JETRO
Japan External Trade Organization

はじめに

日本とジョージア州は，経済的そして文化・教育的な交流などを通じて長い友好の歴史を共有しています。

長期に渡る交流関係を記念して，ジョージア日米協会、ジョージア日本人商工会、在アトランタ日本国総領事館並びにジェトロアトランタが協力して，日本とジョージア州の人々の友情のシンボルとして，カーターセンターにある「平和の鐘」を納める鐘楼堂を建設するプロジェクトを進めています。

このプロジェクトを通じて，ジョージア州の日本関連組織がそれぞれの交流の歴史を紹介すると共に、日本とジョージア州相互の文化的、教育的、経済的、社会的影響にも焦点を当てます。

こうして両者の関係の重要性を再確認することにより、次世代のいろいろな人々が、これからも平和保持と相互理解に努めてくれることを期待しています。

概要

- ジョージア州アトランタ市のカーターセンターにある「平和の鐘」は、元々、日本の広島県三次市にある正願寺の梵鐘であり、同寺の現在の鐘楼堂を参考に設計、建築する。
- 平和の鐘の歴史と物語を伝える記念の盾を作成
- 記念の盾を作成して次のことを記載
  - ジョージア州における日系ビジネスと投資について
  - ジョージア州における日本の芸術文化について
  - ジョージア州における政府関係（姉妹都市など）について
- 日本と関連のあるジョージア州のコミュニティーを招待し、友好関係を築く。
- 州内に止まらず、全米の各レベルでパートナーシップを築くことができるよう呼びかける。
- 2021年7月23日の東京オリンピックの開会式に合わせプロジェクトを公表する。

広島県三次市甲奴町小童の正願寺

第二次世界大戦中の1941年，金属回収令が日本全国に交付され、寺院の梵鐘も例外ではありませんでした。呉海軍工廠には，甲奴町の大きな梵鐘（高さ＝1.50m，直径＝0.64m，重さ＝250kg）が供出されました。

しかし、鐘が弾丸に変わる前に戦争は終わりました

正願寺の記録によると、梵鐘は1820年に鋳造されました。当時の寺院の住職が、「この鐘を打てば、一に、仏が来臨する。二に、罪苦を滅す。三に、諸魔を退散させる。」と念じて、この梵鐘を鋳造されたとのことです。この梵鐘は、村人に親しまれ、時報として、仏事の合図として、更には緊急時の早鐘として、村人の生活を支えました。

梵鐘が英国に渡る

英国に渡った経緯は終に判明しませんでしたが、梵鐘は英国人のジェームズ・テーラー氏のもとに一旦は落ち着きます。彼の息子、ミロス・テイラー氏が1958年にイギリスで父親の所持品を整理しているときに梵鐘を発見しました。ジェームズ・テーラー氏は、一度も英国を離れたことはなく、息子は父親がどのように梵鐘を手に入れたのか分かっていません。

1982年、ミロスさんは、梵鐘を持ってフロリダ州イーストオレンジパーク（ジャクソンビルの近く）に引っ越しましたが、1985年、英国に戻る前に梵鐘を売りに出しました。このことを知ったアトランタのジョージア日本人商工会と在アトランタ日本国総領事館は、梵鐘を購入するために寄付を募り、3,000ドル（当時は約75万円）で購入しました。

梵鐘がカーターセンターに寄贈される

1985年7月24日、在アトランタ日本国総領事野々山忠致氏とジョージア日本人商工会会長・荒木博光氏は、日本コミュニティーを代表し、カーターセンターと日本庭園の竣工記念として、またカーター大統領の世界平和の推進活動に感謝し、カーター大統領夫妻にこの梵鐘を贈りました。

1989年4月、ジョージア日本人商工会会長・古野間計久氏と在アトランタ日本国総領事・木村宗之氏が平和の鐘を捧げました。

Kazuhisa Konoma, Chairman of Georgia Nihonjin Shokokai (left), and the Honorable Takayuki Kimura, Consul General of Japan, greet President Carter on the occasion of the dedication of the Peace Bell.

梵鐘の由来が判明

梵鐘が寄贈された後、国会議員の秋山肇氏がカーターセンターを訪れ、その梵鐘に「備後国世羅郡小童村正願寺」と刻まれていることを確認しました。1987年9月26日に秋山氏は、在アトランタ日本国総領事館・奥典之総領事とともに正願寺を訪れ、住職の寺司友夫氏や檀家の代表者と会談し、正願寺の梵鐘がカーター大統領に寄贈されたことを報告しました。

正願寺の古い梵鐘が「平和の鐘」としてカーターセンターに保存されていることを知った正願寺関係者は、カーターセンターが平和に貢献する組織であることを歓迎すると共に、梵鐘をそこに残すことに同意しました。

カーターセンターが梵鐘を保存

1987年10月、秋山肇議員と奥典之元総領事がアトランタを訪問し、カーターセンター、ジョージア日本人商工会、ジョージア日米協会並びに在アトランタ日本国総領事館の幹部とともに、カーターセンターの梵鐘を大切に保存していくことや、「両国間の親善を築くための支援」をしたいという正願寺の願いについて話し合いました。

1989年3月、カーター大統領図書館・カーターセンターの入口に「平和の象徴、広島の鐘」として説明文付きで展示されました。アメリカ人だけでなく、世界中からの来場者の注目を集めています。

カーター大統領、甲奴町を訪問

1989年11月8日～9日、秋山肇議員、奥典之元総領事、政治ジャーナリストの田村玲子氏、アトランタジャーナルの論説委員のリチャードマシューズ氏が甲奴町を訪問し、今後の交流について協議しました。

1989年11月11日、甲奴町長がカーター前大統領に次の手紙を送りました。

「カーター大統領図書館・カーターセンターの入口に、日米の友情の証として、甲奴町で長い歴史を持つ正願寺の梵鐘が展示されていると聞いて感動しました。

この梵鐘を通じて、私どもが第39代米国大統領ジミー・カーター氏とカーターセンターとの関係を築いたことを誇りに思います。これを機に、市民の協力を得て将来のためにこの関係をさらに発展させていきたいと願います。

(1)町の中心部と正願寺に、日米の友情と世界平和を祈念する記念碑を設置のために、大統領からの手書きのメッセージを2通いただくことを希望します。

(2)訪日の際にはぜひ甲奴町を訪問してくださるようお願いします。」

カーター大統領、甲奴町を訪問

1989年12月11日、ジミー・カーター大統領から甲奴町町長への手紙が届き、次のように述べられています。

「梵鐘は、日米間の平和と友情の貴重な象徴です。また、記念碑へのメッセージを受け取りたいとのことで光栄に思います。日本への訪問中に、甲奴町並びに正願寺を訪問するのを楽しみにしています。」

1990年10月21日、カーター大統領は娘のエイミーさんと一緒に甲奴町を訪問しました。（前日に京都で開催された世界宗教者平和会議で講演するために日本を訪れていました。）

この訪問でカーター大統領は、正願寺で手書きのメッセージを記した記念碑の除幕式に参加し、「友愛の鐘」による世界平和と相互交流への期待を表明しました。（1990年に甲奴町の人々は梵鐘のレプリカを作成し、オリジナルをカーターセンターに返却しました。）

アメリカス市と甲奴町の交流

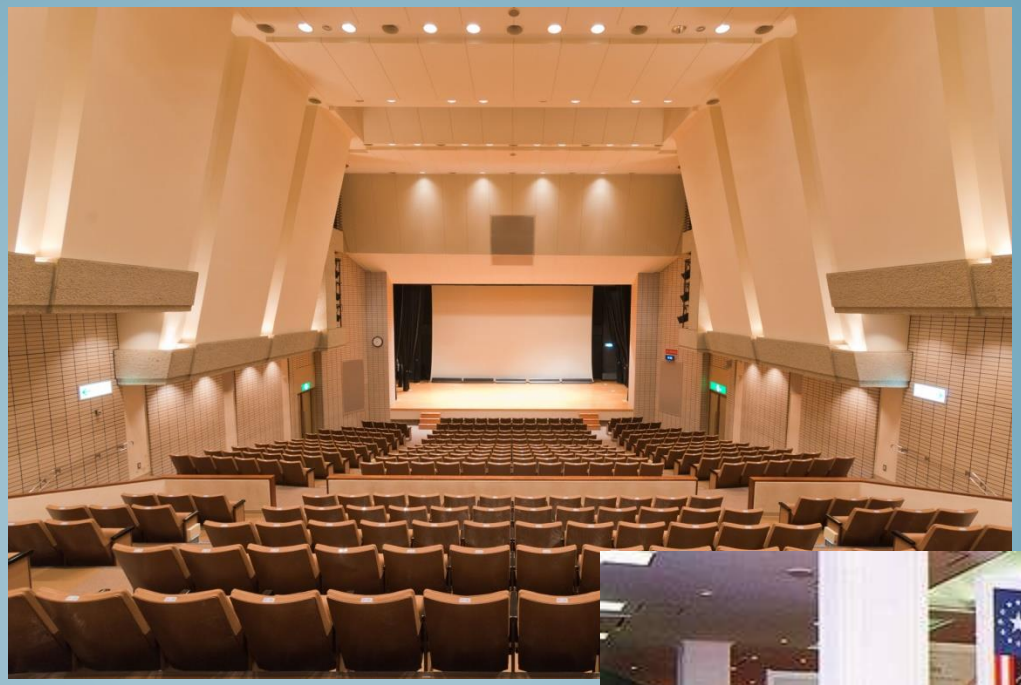
1991年に甲奴町（現在の三次市）とジョージア州アメリカスは相互訪問を開始し、姉妹都市関係を確立しました。三次市からの訪問は毎年今日まで続いています。

カーター大統領は、いつも時間を割いて甲奴の生徒たちに会い、故郷の日曜学校で教えています。そのお返しに甲奴の人々は、アメリカスからの代表団を迎えています。

甲奴のジミー・カーターシビックセンター

1994年に甲奴町（現在は三次市）は、市民活動の拠点としてジミー・カーターシビックセンターを建設しました。その中には、カーター大統領の生涯、大統領職、アトランタのカーターセンターの仕事について語る、「平和学習センター」と呼ばれるギャラリーがあります。1994年7月7日、カーター大統領夫妻は、このジミー・カーターシビックセンターの完成式典に出席しました。

今日、甲奴のメインストリートはカーターアベニューと呼ばれています。甲奴の中心地からカーターアベニューを東に進み右に曲がると、カーター記念野球場前を通過し，ジミー・カーターシビックセンターに到着します。シビックセンター周辺は「カーターヒルズ」と呼ばれていて、ジョージア州プレインズから来たように見える4つの家が建てられました。2軒は宿泊者用、1軒はアートコレクション、最後は「あみん」というレストランです。甲奴の農家の多くは「カーターピーナッツ」の栽培に取り組み、毎年11月にカーターピーナッツ・フェスティバルが開催されます。元大統領夫妻から送られてきたピーナッツが三次市の特産品になっています。



平和の鐘の伝統継承

正願寺の梵鐘は長い旅を終え、一見安全な避難所を見つけたようですが、鐘の旅はまだ続いています。

アトランタの日本人コミュニティーが梵鐘を寄贈したとき、それを鐘楼堂に設置して、その音がアトランタの街に響き渡ることを希望したのだそうです。梵鐘は大切に保管されていますが、現時点ではまだその音を響かせる状況にはありません。

Sources: https://www.atlanta.us.emb-japan.go.jp/nihongo/cartercenterreport.pdf, https://pcv.peacinstitute.org/, https://cartercenter.jp/, https://www.cartercenter.org/